

<<取組事例簡易紹介シート>>

第5回 健康寿命をのばそう！アワード <生活習慣病予防分野>

企業・団体・自治体等の名称： ヤマトグループ健康保険組合

取組・活動名：
 コラボヘルスで「いきいき社員」応援計画 ～みんなで協力、みんなが受診～

取組アクション：	適度な運動	適切な食生活	禁煙・受動喫煙防止	<input type="radio"/> 健診・検診の受診	その他
----------	-------	--------	-----------	--------------------------------	-----

プロジェクトウェブサイトURL : <http://www.ytckempo.or.jp/>

【背景】

企業が永続的に発展するには、労働人口の減少や高齢化、深刻化する採用難に備え、現在の社員が男女・年齢を問わず（ダイバーシティ）、末長くパフォーマンスを発揮し、「いきいき」と働ける職場環境を整える必要があります。そのため「ヤマトグループ（事業主）」は、社員の「健康維持増進」は最優先課題として捉え、健康リスクの低減策として「特定健診」「特定保健指導」「がん（特に乳がん）対策」を、健保組合やグループを挙げて取り組んでいます。

【目的】

ヤマトグループは、約6,800カ所の国内事業所、10万人以上の社員、そのほとんどが毎日外に出て働くドライバーです。その特性上、当初「特定健診」や「特定保健指導」「乳がん検診」など実施率は低く、特に「特定保健指導」は脱落者が多く、また「乳がん検診」は、時間や場所等「受診機会」も少なかったため、**事業主・健康保険組合・健診機関・パートナー企業が連携し、その役割分担の中で、実施率（受診率）の向上を目的とした取組みを行い、「健康寿命」の延伸に努めます。**

【方法（1）—特定健診・特定保健指導—】

- ①特定健診（35歳以上）：定期健康診断と併せ特定健診の実施状況は、それぞれの事業所の年1回の内部監査においてモニタリングし、経営層まで報告され、事業所の評価項目となる。
- ②特定保健指導（35歳以上）：ヤマトグループの特性上「電話」による支援の継続性が低いため、これをすべて「面談」にあらため、面談日を予め交番表に組み込み「受診モレ」を防止。
- ③受診状況の情報を事業主・健保・パートナー企業と常に共有し脱落者を素早くフォロー。
- ④事業主に担当者（福祉アドバイザー）を設置し、オペレーションや受診管理（目標管理）を徹底。

【方法（2）—乳がん検診—】

- ①「より身近で」「より受けやすく」をコンセプトに、検診の無料化・全国の事業所へ検診バス（マンモ・エコー搭載）の巡回を実施。
- ②健保・各事業所の担当者・検診業者の連携と情報共有を密接に実施。受診者へはその事業所の担当者がフォロー。
- ③対象者の上司（特に男性）の理解を深めるため、健保の担当者が各事業所の会議体へ出向き検診の重要性を説明。

【結果】

- ①特定健診：近年は継続して**ほぼ100%受診率**を維持。
- ②特定保健指導：平成27年度社員の**特定保健指導完了率80%**を達成。
- ③特定保健指導受診完了者のうち、**約40%**の対象者が翌年特保対象から脱却、また、内臓脂肪症候群の割合も改善した。
- ④乳がん検診：平成27年度は**78カ所**を巡回し、**40%以上**の女性社員が受診をした。
- ⑤乳がん検診受診者のうち要精密検査者が判定され、**乳がんの初期判定となり、早期発見へつなげた。**

【今後の展開】

- ①特定健診・特定保健指導：健診から把握した「健康ハイリスク者」に対する取組み展開。
- ②乳がん対策：事業者の意識の高揚、さらなる理解の深化のため「推進者」を設置し「オリジナルピンクリボンバッジ」の付与。

取組・事業の概要がわかる写真や図：

▼特定保健指導を通じ、生活改善に挑む社員の様子を健保広報誌に掲載（BEFORE-AFTER）



▼マンモバスによる全国事業所巡回の様子

